

群馬県立館林高等学校 学校評価一覧表 (令和6年度版)

(別紙様式)

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等				総合	
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	(1)自分の学校が好きだと感じている生徒が、90%以上である。	生徒が自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出せるような活動を支援できるよう、これまで以上に指導体制を充実させるとともに、生徒が学校に対して好きだと感じられていない点を分析し、検討する。	A	A	A	2学期充実度アンケートにおいて「館林高校が好きですか?」という質問に対して、1年で91.8%、2年で90.5%、3年で91.9%の生徒が肯定的な回答であり、数値目標は達成できていると考える。否定的な回答には施設設備に不満を持つものが見られたので、関係部署と協議しつつ学習環境の改善に努めていきたい。	・館林高校のことが好きと回答した生徒の割合等から、特色ある学校づくりを実践していると考えます。		
		(2)「強歩大会」に参加して達成感が得られたと答えた生徒が80%以上である。	「強歩大会」開催に向けて職員と保護者の協働体制を築く。また、今年度より要項を改定し、一斉スタートを取り入れるなど体力に自信のある生徒も満足できる大会を目指し、生徒の体力向上を促す。	A	A	A			1学期充実度アンケートにおいて「強歩大会で達成感は得られましたか?」という質問に対して、1年で92.6%、2年で87.6%、3年で88.9%の生徒が肯定的な回答をしており、強歩大会において多くの生徒が達成感を得ている。職員、保護者との連携を深め、さらに魅力ある行事となるよう努めていきたい。	・強歩大会参加で達成感を得ている生徒は多い。他校にはない伝統的な行事なので、もっと外部に発信するとよい。
		(3)部活動や特別活動に主体的に取り組み、充実感を持っている生徒が80%以上である。	部活動等の活動においては、人間力が向上できるように主体的な行動を促していくとともに、地域貢献ができるようなボランティア等を数多く積極的に生徒に紹介し活動への参加を促す。	A	A	A			2学期充実度アンケートでは、1年で93.0%、2年で93.9%、3年で96.2%の生徒が肯定的な回答であり、多くの生徒が充実感を得ている結果であった。部活動や特別活動は生徒の成長にとって重要な要素の一つであるので、安全かつ充実した活動につながる改善策を検討していきたい。	・他校にない部活動等が本校の特徴の一つである。男子校ならではの良さ、楽しさを生徒の主体的活動を通してアピールするとよい。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	(4)授業で、生徒が自ら考えたり決めたりする場面や他者と関わりながら学びを深める場面を設定して「学びの自分事化」を図り、「主体的・対話的で深い学び」の充実につなげようとしている教員が80%以上である。	学びのイノベーションリーダーによる研究成果についての研修や教員相互の授業参観等を実施して教員の理解を深め、実践力及び実施意欲の向上を図るとともに、校長の授業観察や、教員の自己評価及び生徒アンケート等により取組の状況を確認する。	B	B	B	授業改善自己評価アンケートにおいて、週に1度以上「『学びを自分事化』」することを意識して主体的な学習活動を行った」教員が86%、「対話し学び合う学習活動を行った」教員は68%であった。生徒の授業アンケートではそれぞれの活動があったと答えた割合が95%、87%となっており、主体的・対話的で深い学びを目指す学習活動が定着してきていると考え	・アンケート結果や授業見学での様子から、生徒の意欲的な学習について、適切な指導がなされていると考える。		
		(5)1、2年生で1年間に7冊以上の本を読んだ生徒が50%以上である。	座談会、読書会、講演会等の行事を開催して図書館の利用を促進し、図書館だよりや館報、オンラインでの蔵書検索により蔵書の紹介に努め、読書への関心を高めるとともに、各教科から読書の効用を説いてもらう。また、「読書感想文コンクール」への参加や「新書読破月間」の設定により論理的文章を読むきっかけをつくってゆく。さらに生徒が興味を持ってそうなイベント等を実施し、生徒が図書館に足を運ぶ機会を増やす。	C	C	C			2学期末充実度アンケートにおいて、2冊以上本を読んだと回答した生徒は1年39.8%、2年43.6%、3年22.6%で、昨年度の2学期末を下回っている。1、2年生は新書読破月間や読書感想文に取り組んでおり、新書読破月間では、全員の生徒が期間内に本を借りている。読書感想文もほぼ全員の生徒が提出している。こうした経験を読書習慣として定着させることが課題である。探究活動や小論文、教科の学習において本を利用する活動を体験させた	・読書量が少ない状況は、中学校においても課題となっている。本だけでなく、新聞等を読むことから習慣づけをしてみてはどうか。
		(6)学習内容の定着及び進学を意識した学力向上のために、学習時間3000時間プロジェクトを実施し、課外授業への参加や課題等に取り組む時間、予習・復習などの家庭学習を含めたトータルでの授業外の学習が、1・2学年では1日平均2時間以上、3学年では1日平均3時間以上確保できている生徒が60%以上である。	生徒が主体的に授業以外の学習に取り組むように課題の量を検討するとともに、卒業生の体験談等を活用して自主学習の必要性や意義を理解させる。放課後の学習室の利用を推進するなど学習量の確保に努める。学習室の設備拡充及び拡大について生徒の周知をばかり、利用を促す。また、課外授業の趣旨や目的を理解させ、その参加を促す。さらに「学習量調査シート」を活用し、学習量の不足しがちな生徒への声かけ、面談を積極的に行って生徒の意欲を喚起する。	D	D	D			学習量調査において1日2時間以上学習している1年生は約19.4%、2年生は約33.2%、3時間以上学習している3年生は約51.0%で、全体としては目標値を下回っている。学習時間3000時間プロジェクトの意義や目的が生徒に、また職員にも十分に理解されているとは言えない。本校の生徒の実態を踏まえ職員、生徒ともに目標を共有し、プロジェクトを理解した上で、日々の課外授業への積極的参加、家庭学習の習慣化、学習に取り組む姿勢の改善を図っていきたい。	・家庭学習の充実は中学でも課題である。学習時間3000時間プロジェクトは、意義や目的、根拠等を明確にして職員が共通認識を持つとともに、生徒にも十分理解させ、取り組むとよいと考える。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	(8)登下校時にヘルメットを着用している生徒が60%以上である。	生徒が主体的に活動できるよう、考えさせたり学び合う場面を取り入れる。また、生徒の実態に応じた適切な課題を与えることで、意欲的に学習に取り組めるようにする。	B	B	B	2学期末充実度アンケートにおいて、意欲的に学習していると回答した生徒は、1年84.8%、2年73.2%、3年93.5%で、1、3年では昨年度を10%程度上回る。全体としては80%を超え、目標を達成しているといえる。生徒がさらに意欲的に学習できるよう、目標を示し、多くの機会を設けてゆきたい。	・第2回で2学年の「総合的な探究の時間」グループ内発表を見学したが、生徒が意欲的に取り組んでいた。また、内容について行政等に提言として伝えるとよいと考える。		
		(9)学校全体でいじめ問題に取り組み、本校のいじめ防止基本方針を職員、保護者、生徒が100%理解している。	「学校生活に関するアンケート」「教育相談いじめアンケート」を定期的に実施して、いじめの早期発見・対応につとめるとともに、PTA資料・WEBページ等も活用して、「いじめ防止基本方針」を配布、周知し、いじめ発生の抑制につとめる。	B	B	B	7月に第1回ヘルメット着用調査(進路講演会で自転車での移動時)では、1年生85.6%、2年生69.4%、3年生78.6%平均77.9%であった。12月の第2回ヘルメット着用調査(期末テスト後の登校時)1年生52.4%、2年生52.9%、3年生25.2%平均42.7%であった。ヘルメット着用努力義務化3年目を終え、もう一度ヘルメット着用の大切さを確認する必要がある。	・高校生のヘルメット着用は全体的にあまり進んでいないと感じる。地道に意識付けを促すべきと考える。		
		(10)望ましい起床時間、睡眠時間、就寝時間を意識した生活を送っている生徒が90%以上である。	勉強時間やモバイル視聴時間の家庭での決まり事など、規則正しい生活習慣を送ることの大切さを伝える。	C	C	C	毎学期2度実施しているアンケートにおいて、全体の99%以上の生徒が、いじめについて、「見たり聞いたりしたことはない」「実際に被害にもあっていない」ということにつながる回答をしている。しかし、アンケート結果にはあられずとも、様々な人間関係のトラブルは、今年度も顕在した。個人面談、日常生活の観察などから得られる情報などを活用して、今後もいじめの早期発見、根絶に向けて適切な指導を継続していきたい。また、WEBページに掲載されている本校の「いじめ防止基本方針」をPTA資料として改めて配布することはなかった。	・概ね適切な指導が行われていると考えるが、少数派の意見にも目を向け、丁寧な対応をお願いしたい。		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	(11)毎日朝食を摂っている生徒が90%以上である。	勉強時間やモバイル視聴時間の家庭での決まり事など、規則正しい生活習慣を送ることの大切さを伝える。	C	C	C	2学期の充実度アンケートで1年生71.3%、2年生73.2%、3年生76.3%であった。毎日遅刻しているような生徒などは見当たらず、規則正しい生活が送れていることが見られる。	・目標値に届かなかったが、学校で遅刻等を繰り返す生徒がいないことはよい。		
		(12)感染症への基本的対策(手洗いやうがい、換気等)や近年、身近に起こりうる地震・災害や熱中症対策に関心をもち、何らかの想定・準備・対応を行っている生徒が90%以上である。	朝食を摂ることの重要性を年間を通して継続的に伝える。生徒には保健委員会の活動や全校集会を通して呼びかけ、保護者には保健だより等を活用して連絡する。	A	A	A	昨年度アンケート結果92%だったが、今年度も91.8%とほぼ同様であった。(1学期92.5%、2学期91%)。これは多くの生徒が、部活動や進路実現のために学校生活を中心とした基本的な生活習慣が概ね身につけていると考えられる。より高い割合を目指し、生徒・保護者に啓発し、継続指導していきたい。	・朝食を摂ること等は生徒個人だけの課題ではない。家庭の協力もあってのことである。		
		(13)学校から提供される進路情報(進路だより、進路の手引き等)が役立っていると自己評価する生徒が80%以上である。	保健だよりや防災訓練、保健や家庭科などの教科指導を通して健康や安全を周知させる一方で、日常生活でも時事問題に目を向けさせ、危機管理や安全意識についての関心・対応を持たせるようHRなどを通して伝えていく。	B	B	B	今年度より感染症対策他、安全意識・危機管理の項目を増やしたが、アンケート結果では全体86.5%(昨年度感染症対策のみ89%)であった。生徒の現状を観察すると感染症対策は高い意識をもって実践している生徒が多く見られ、コロナ禍を機に習慣化が図られている。安全意識はばらつきがあり、情報提供や時事問題などで関心を持たせ、いかに当事者意識を持てるかが課題であると感じる。	・アンケートについての考察を来年度の目標設定にいかすとよい。		
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	(15)PTA活動について理解している保護者が90%以上である。	各時期の学習のポイントや学習量調査の結果、模試結果に基づいた情報などを掲載し、生徒や保護者の進路意識を高め、授業や家庭学習で学習を積み重ねることの重要性について伝える。	A	A	A	2学期末充実度アンケートで学校から提供される進路情報が役に立っていると回答した生徒は、1年84.2%、2年82.7%、3年91.4%で全体としては86.2%である。多くの生徒が提供された進路情報を生かしていると言える。	・進路情報の提供等について、適切に行っていると考える。		
		(16)進路実現に向けて、自らを高める努力をしていると自己評価する生徒が90%以上である。	HR活動や進路行事を中心に、生徒が主体的に進路について考える態度を育成し、進路目標が明確になるよう、進路関係行事の精選・充実を図るとともに、保護者に対しても啓発活動を行う。	B	B	B	2学期末充実度アンケートで進路実現に向けて努力していると回答した生徒は、1年83.0%、2年81.0%、3年97.8%で全体としては87.5%で、目標の90%を下回った。進路について前向きに考え、情報収集して具体的に行動を起こせるような機会を設けていきたい。	・生徒が進路目標を明確にして、実現のための努力ができるよう、継続して指導を行ってほしい。		
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	(17)PTA活動について理解している保護者が90%以上である。	PTA新聞等の発行を通じて、PTA活動に対する保護者の理解を深める。理解度の調査はGoogleフォームによるアンケートにて行い、回収率アップに努める。	A	A	A	この1年間でPTA新聞を4回、PTA通信を10回以上発行し、学校の様子を発信することで、保護者の学校に対する理解を高め一助とした。PAT総会でFormsでの表決については委任状を含めて92%以上のの方が賛成であった。次年度はさらに多くの保護者の方々に学校を訪れる機会を増やしたい。	・特色や伝統のある行事や部活動の成果等を、Webページ等を活用してさらに発信していく必要がある。		
		(18)館林高校ホームページの更新対象のすべてのページを1年で1回以上更新し、全体の更新が年間70回以上である。	各ページの責任者は1年に1回以上更新する(前年度の情報のまま放置することがないようにする)。なお、部活動関係や学校行事は5~7月と10~11月を含む年2回以上更新する。	C	C	C	Webページの更新は、更新対象の全項目数66中今年度未更新だった項目数が11であった。そのため、更新率としては83%となる。総更新回数は101回であった。	・進学校としての実績について、中学校や地域に対してもっとアピールしてもよいのではないかと。		
VI 教育デジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	(17)授業改善自己評価シート及び生徒アンケートにおいて、ICT機器を活用した授業の割合や実施状況について高評価をしている割合が80%以上である。	公開授業や授業改善のための研修等を活用して教員のICT機器活用技術の向上を図り、授業でのChromebook等の活用や、生徒が出席できない場合のリモート配信をより充実させる。	C	C	C	Chromebookの活用について、活用頻度が高かった教諭が36%、効果的に活用した教諭が57%であり、生徒アンケートにおいては、Chromebookの活用があった授業が64%、活用の効果を感じた割合が66%であった。	・ICTの活用について、小中高の連続性の中で、発展的にスキルやモラルを指導していくのがよい。高校では、相応の活用が可能になると考える。		
		(18)ICTを活用した保護者通知や欠席等の連絡について、生徒・保護者の70%以上が満足している。	保護者に対し、ぐんまスクールネット(GSN)メールやGoogleフォームの利用方法を集会等で周知し、職員の勤務時間外における業務の軽減を図る。	A	A	A	GSNメール及びGoogleフォームの利用に係るアンケート調査を実施した結果、保護者から「非常に満足」が32%、「やや満足」が56%、合計88%という結果が得られた。書類を生徒に配付する際にメールでも通知してほしいといった意見も寄せられているため、今後さらなる活用を検討していきたい。	・保護者との連絡等にICTを活用し、利便性を高めていることはよい。さらに充実させてほしい。		